

多文化社会学について

21世紀社会の「多文化社会的状況」における諸問題に対して、多様性の尊重と、文化的他者への理解や共感を基本的なマインドとし、その上で、多様な文化や社会、理念や利害を洞察し、異なる知や人を横断的に繋ぎ、**超域的かつ俯瞰的な見地から問題の発見・説明・予測・解決に取り組むための知の体系を持った(学)**のこと。

設置の趣旨・必要性

1. 多文化社会的状況（既存の学問的分業が諸問題に対して十分に**応えられず苦戦している状況**）がもたらす諸問題の**発見・説明・解決の必要性**
2. 「多文化社会学」の更なる高度化と専門化による**国際的発信能力を備えた研究者及び高度専門職業人等の養成の必要性**
3. Society5.0の到来を前に、**AI等で代替が困難な人文社会科学系の学問を背景とした高度専門職業人等の重要性**
4. 長崎に所在する国立大学の責務（**核兵器廃絶・平和推進への取り組み**や地球社会のインター・ローカル・リレーションシップに基づく「**世界と地域**」の一体的創成）

養成する人材像（入学定員：3名）

【学位：博士（学術） Doctor of Philosophy】

多文化社会学のより卓越的、独創的なレベルでの成熟を通じて、「多文化社会的状況」における複雑な諸問題の「**問題本質の見極め**」と「**問題解決に向けた多様な解の提示**」を目指し、21世紀の学問に求められる**価値の創生と普及及び生命、精神、社会文化の持続可能な世界の構築に資する、国際的発信能力を備えた人材を育成する。**

想定される就職先

- ・大学等の教育・研究機関
(留学生の母国の大学や研究機関を含む。)
- ・商社・食品・製造等のグローバル企業
- ・国際機関、シンクタンク、国際NGO
- ・社会人の学び直し

特色ある教育（専任教員：35名）

1. 各研究領域における更なる専門化と体系化

21世紀社会の「多文化社会的状況」における、より一層高度な「**問題本質を見極める力**」及び「**問題解決に向けた多様な解を提示する力**」を養うために5つの研究領域（系）を編成する。

2. 核兵器廃絶をメインに掲げた国内唯一の研究科

学術的国際発信を続ける核兵器廃絶研究センターの教員を中心とし、被ばく地長崎の地域性を踏まえた**世界有数の核軍縮教育・研究環境**。

3. 世界トップクラスの国内外研究機関と連携

ライデン大学、国際基督教大学、東洋文庫及び国立歴史民俗博物館等との包括連携に基づく教育・研究リソースを広範囲に渡って活用。上記機関から学外アドバイザーを選出し、研究助言などを行う。

4. 多文化社会学研究に相応しい学際性の担保

研究指導は、**主指導教員とは異なる研究領域（系）の副指導教員1名を含む3名の研究指導チーム**により行う。必要に応じて学生の研究テーマを考慮して学外の連携機関から学外アドバイザーを選出する。

社会文化研究系

共生の視点に立って、生命、精神、社会文化と、それらに関わる社会、制度、組織、相互行為、構造、機能などの多様性を理解し、世界を、「出来事の生成と消滅の反復」と「出来事の物質化（制度化）」が構成する動的平衡及び差異体系として捉えるなかで、摩擦や衝突を超えた新たな秩序や文化の形成を探究する。

言語研究系

社会の現実と問題が、言語・コミュニケーションから構成されることに基づき、相互理解の原理的解決の可能性を求めて、言語の固有性を、記号内容（意味や意図）と記号形式（音や動作）の統語性や、言語表現の使用による意図の共有から探究する。また、言語の適応的機能に関する思考・生成文法や、コミュニケーションによる社会構築の可能性、コミュニケーションの情報・伝達・理解の選択を支える非言語コミュニケーション及び非記号的コミュニケーションについて探究する。

環海日本長崎学・アジア研究系

従来の日本研究の諸成果を、東アジア及び世界に位置付けなおし、ヒト、モノ、コトの流動のなかにある日本、その1つの拠点としての長崎という視点から、従来の文学部中心の日本研究とは異なる、トランス・ディシプリナリーな「環海日本長崎学・アジア研究」を探究する。すなわち、オリエンタリズム的認識（自己に対して優越的な意味を付与するために、他者を一段劣った存在として、搾取や救済の対象に据えて構築すること、このような自己中心的な自己-他者認識が、「他者支配の言説」（ディスコース）に基づく近代学問のあり方に深く根差していること）を、理論・実証を通じて脱構築し、グローバル化による世界や学問の脱中心化と多中心化に注視しながら、21世紀の人文社会科学の前提となる、新たな自己-他者関係を探究する。

公共政策研究系

国際公共政策の課題設定と設計、政策形成と決定、政策実施と管理、政策評価を行うために、政策過程の各段階でそれぞれのアクターが演じる役割や限界を理解するとともに、現在の国際関係を批判的に検討し、グローバルな公共的価値の形成と実現を探究する。

核兵器廃絶・平和学系

核抑止力に依存しない安全保障の枠組みや原子力平和利用と核不拡散の関係等について国際情勢を注視しつつ分析・考察し、核軍縮・不拡散に関する専門性の涵養を通じて、核なき世界の形成と実現を探究する。